

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02549

研究課題名(和文) グローバルとローカルの持続可能性を融合するGAPのモデル開発

研究課題名(英文) The study about model development of GAP(Global Action Program) which is integrated with global and local sustainable issues

研究代表者

浅野 由子 (ASANO, Yoshiko)

日本女子大学・家政学部・講師

研究者番号：80508325

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：グローバルとローカルの持続可能性に関するスウェーデンのウプサラ市と日本の岡山市の活動調査を行った。初年度の「若者の活動」調査と次年度の「地域活動の奨励」調査から、最終年度に統合モデルを示した。政策的に、グローバルとローカルな視点から、環境負荷の低減(自然保護的アプローチ)と民主主義の徹底(民主主義的アプローチ)の両面が不可欠であり、教育的には、各組織の専門家が協働で教材やカリキュラム開発をするといった必要十分条件が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地球の持続可能性を考慮した政策や教育を具体的にどのように進めていけるのか、先進国のスウェーデン(ウプサラ市)と日本(岡山市)での比較調査を行った。その結果、両市で、政策的に「自然保護的」「民主主義的」なアプローチを統合し、教育面では、各組織が連携し、専門家が協働で教材やカリキュラムを開発する必要性が示唆された。この結果から、今後、各都市におけるSDGsの推進に向けた政策的なアプローチと教育的なアプローチに必要な統合モデルが示唆され、今後の指針が示された。

研究成果の概要(英文)：Activity surveys were conducted. An integrated model was presented in the final year from the "Youth Activities" survey in the first year and the "Encouragement of Community Activities" survey in the next year. From a policy perspective, it was clarified that both reducing environmental impact (nature conservation approach) and thoroughly promoting democracy (democratic approach) are essential from a global and local perspective, and in terms of education, it is necessary and sufficient conditions for experts to collaborate in each organization to develop teaching materials and curricula.

研究分野：持続可能な開発の為の教育

キーワード：持続可能性 若者 地域 スウェーデン ウプサラ市 岡山市 自然保護的アプローチ 民主主義的アプローチ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

現在の国際社会の危機的問題は、環境問題、貧困、戦争、といった多岐の分野に渉るものである。それは、2015年9月に国連が提唱したSDGs(サステイナブル・ディベロップメント・ゴールズ)が、17項目あることから明らかである。こうしたグローバルで抽象的な目標を対処するには、ローカルで具体的な課題に焦点を当て、組織化することが必要不可欠である。2015年の名古屋市と岡山市で開催された国連持続可能な開発の為の教育の10年(DESDE)の会議後、世界各国で、持続可能な開発の為の教育(ESD)の活動に拡がりが見られているが、その活動をESDの次の目標となるグローバル・アクション・プログラム(GAP)として組織化し、明示化していく課題が各国の緊急課題としてある。そこで、GAPの活動に向けて、各国がどのような活動をしているのかを追跡することは意義深く、そこには、より歴史、文化そして環境的の投影された内容が明示されることが予想される。本研究では、これまでの比較研究「ESDのカリキュラム・教材・教師養成の開発」研究課題番号:24700873)を発展させ、ESD先進国であるスウェーデンと日本において、グローバルな持続可能性に関する課題とローカルな持続可能性に関する課題を融合して組織化し、モデル開発を行うことでよりESDやGAP、RCEの活性化に寄与するものと考えた。

### 2. 研究の目的

本研究課題に取り組むことにより、持続可能な開発の為の教育の10年(DESDE)会議後の持続可能性に向けての政策的な目標であるグローバル・アクション・プログラム(GAP)の各国の内容が具体化される。また両国のGAPの取り組みを比較研究することで、地球環境問題を解決する為のGAPのモデル開発をする事が可能となる。よって、本研究の目的は、「グローバルとローカルの持続可能性を融合するグローバル・アクション・プログラム(GAP)のモデル開発」をすることである。

### 3. 研究の方法

ESD先進国のスウェーデンと日本においてESDやRCE(持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点)に率先的に取り組んでいる都市であるウプサラ市と岡山市のESD活動について、2019年~2023年の5年間(コロナ禍であった為、2年間の延長)の追跡調査をした。特に、1年目は、政策的支援、2年目(と3年目)は、ユース(若者)の参加と地域コミュニティのESD事例の奨励、4年目(と5年目)は各国のGAPに向けてのグローバルとローカルの持続可能性に関する活動を整理し、融合に向けた必要十分条件を分析・考察した。研究対象は、これまでにスウェーデンと日本で調査対象としたESD関連機関(自治体、企業、教育機関、NGO団体)とした。主な、研究協力機関は、ウプサラ大学と岡山大学、岡山市市民協働センターである。研究方法は、アクション・リサーチ(インタビュー調査、アンケート調査を含む)を基本とする。具体的な調査は、研究機関においては、特に、文献調査によるESDの研究動向の把握をし、キーパーソンへのインタビュー調査を行い、メールでの交流は、常に行える状態にした。地域活動の調査は、特に、地域で行われるESD関連行事(シンポジウム、ワークショップといったイベント)には参加し、行事のキーパーソンへのインタビュー調査を実施した。研究日程は、2018年4月~2023年3月に、研究協力者(ウプサラ大学、岡山大学)との会合を、年2回(春、秋)に設けた。

### 4. 研究成果

グローバルとローカルの持続可能性に関するスウェーデン(ウプサラ市)と日本(岡山市)の活動調査を行った。特に、ウプサラ市の持続可能課でのインタビュー調査から、2018年-2023年の5年間、CO<sub>2</sub>削減の為の環境負荷を下げる政策(自然保護的アプローチ)を推し進めながらも、移民増加による治安の悪化や若者の自殺率の増加といった問題から持続可能性を促進する策(民主主義的アプローチ)を推し進めている現状を明らかにすることが出来た。また岡山市のESD/SDGs推進課のインタビュー調査から、2018年「SDGs未来都市」に選定されたことにより、ESD活動における各機関の連携が強化され、若者や地域の奨励活動が活発化している現状が明らかとなった。最終年度(2022年度)は、初年度(2018年度)の「若者の活動」調査と次年度(2019年度)からの「地域活動の奨励」調査から、統合モデルを示した。政策的に、グローバルとローカルな視点から、環境負荷の低減(自然保護的アプローチ)と民主主義の徹底(民主主義的アプローチ)の両面が不可欠であり、教育的には、自治体、企業、教育機関、NGO/NPOといった各組織において専門家が協働で教材やカリキュラム開発をするといった事例が両国において多く見られた。

これまでの事例調査から、スウェーデンと日本の現状比較をすると、政策面においては、「自然保護的アプローチ」と「民主主義的アプローチ」の2側面が、持続可能性つまり環境・経済・社会を総合的に捉える視点において、必要不可欠であることが示唆された。また、事例の分析・考察において、日本の政策には、グローバルの視点での統合が不十分である現状があり、ローカルな視点と統合していく必要性が明らかとなった。また教育面においては、ウプサラ市と岡山市において、各組織（自治体・企業・教育機関・NGO/NPO）が連携して、多彩な教材やカリキュラムが開発されていることが明らかとなったが、日本においては、スウェーデン以上に、ローカルで多彩な活動が奨励されている現状が明らかとなった。

このような研究結果から、最終的に、地球の持続可能性を考慮した政策や教育を具体的にどのように進めていけるのかについて、先進国のスウェーデン（ウプサラ市）と日本（岡山市）で比較調査を行った結果、政策的に、「自然保護的」「民主主義的」なアプローチを統合し、教育面では、各組織（自治体、企業、教育機関、**NGO/NPO**）が連携し、専門家が協働で教材やカリキュラムを開発する必要性が示唆された。この研究結果から、今後、各自治体の **SDGs** の推進に向けた政策的なアプローチと教育的なアプローチに必要な統合モデルが示唆され、今後の指針が示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 浅野由子 坂本祐子	4. 巻 20
2. 論文標題 子育て支援と地方創生の視点からみた「自然保育」の重要性に関する一考察.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 野外文化教育学会	6. 最初と最後の頁 19 - 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田隆史 浅野由子 青木和夫	4. 巻 49
2. 論文標題 特集：今子ども達の姿勢が危ない！！	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 POSTURE ポスチャー	6. 最初と最後の頁 8 - 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 841
2. 論文標題 CPD講座 SDGs の視点から見た建築・保育環境 スウェーデンの事例から 第1回 就学前学校にみる取り組み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 842
2. 論文標題 CPD講座 SDGs の視点から見た建築・保育環境 スウェーデンの事例から 第2回 子どもの権利を保障する関連施設の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 42 - 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 843
2. 論文標題 CPD講座 SDG s の視点から見た建築・保育環境 スウェーデンの事例から 第3回 まちづくりに向けた子どもや若者の参画の事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 38 - 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 844
2. 論文標題 CPD講座 SDG s の視点から見た建築・保育環境 スウェーデンの事例から 第4回 子育て支援を支える建築環境	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 17
2. 論文標題 「持続可能な開発の為の教育(Education for Sustainable Development: ESD) からみるウブサラ市の持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) の主導性」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 11 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 28
2. 論文標題 持続可能な開発目標 (SDG s) の視点から考察する保育「環境」の重要性 領域「環境」のカリキュラム・教材開発の可能性から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科	6. 最初と最後の頁 215 - 221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 71
2. 論文標題 「スウェーデンにおける幼児期の SDGs 実践 就学前学校の保育・教育活動から 」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本家政学会学会誌	6. 最初と最後の頁 73、77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 68
2. 論文標題 「質のある保育を展開するには? -スウェーデンの保育者記録における日本の保育者養成への示唆-」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本女子大学紀要 家政学部	6. 最初と最後の頁 17 - 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 27
2. 論文標題 「日本の保育者養成における『アクティブ・ラーニング』の課題 -スウェーデンのテーマ学習『尻尾のな いペレ』を事例に-」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科	6. 最初と最後の頁 239、246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部俊充・浅野由子	4. 巻 7
2. 論文標題 「スウェーデン海外教育研修の概要と地域連携 ウプサラ大学との SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) プログラムの開発に向けて 」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本女子大学教職教育開発センター 年報	6. 最初と最後の頁 39, 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 17
2. 論文標題 「持続可能な開発の為の教育(Education for Sustainable Development: ESD) からみるウプサラ市の持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) の主導性」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北ヨーロッパ学会	6. 最初と最後の頁 1, 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野由子	4. 巻 71
2. 論文標題 スウェーデンにおける幼児期のSDGs実践－就学前学校の保育・教育活動から－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本家政学会誌	6. 最初と最後の頁 1 - 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 浅野由子
2. 発表標題 「スウェーデンの SDGs に向けた保育実践 - 現地の保育体験から - 」
3. 学会等名 北欧文化協会 4 月例会報告 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅野由子
2. 発表標題 “ Initiatives of SDGs (Sustainable Development Goals) in Uppsala City from the perspective of ESD (Education for Sustainable Development) ” 英語発表
3. 学会等名 北ヨーロッパ学会 オンライン研究会 共通論題「自治体における SDGs (持続可能な開発目標) の推進と目標達成に向けたシナリオ」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅野由子
2. 発表標題 「自然豊かな地方の魅力を活かした地方創生の取組事例（鳥取県智頭町・北海道下川町）」
3. 学会等名 第5回 自然保育学会 オンライン開催 自主企画シンポジウム 「『自然保育』を学童期の学びや地方創生に繋ぐ」
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中川素子 浅野由子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 225
3. 書名 絵本で読みとくSDGs	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>「SDGsとこども 家庭・地域・地球環境から」  <a href="https://www.jwu.ac.jp/unv/about/facilities/jecsc/event/pg9d8r000008ini-att/jsc_news_210918.pdf">https://www.jwu.ac.jp/unv/about/facilities/jecsc/event/pg9d8r000008ini-att/jsc_news_210918.pdf</a>  「森のようちえんと地方創生 ～地方の豊かな自然を活かす～」  <a href="http://www.kokuchpro.com/event/2021online/">www.kokuchpro.com/event/2021online/</a>  スウェーデンにおける幼児期のSDおよびESD  <a href="https://esdcenter.jp/overseas/report06/">https://esdcenter.jp/overseas/report06/</a>  子どもを考えることは、未来の地球を考えること  <a href="https://www3.jwu.ac.jp/sdgs/articles/detail_2.html">https://www3.jwu.ac.jp/sdgs/articles/detail_2.html</a></p>
--

6. 研究組織			
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)		備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------